

在南ア日本大使館領事がつづる

# 南アフリカ通信 最終回

ワールドカップ南アフリカ大会は終わった。大成功だったと思う。観客数は歴代3位、試合はすべて時間どおりに運営されたし、何よりも外国人サポーターの犯罪被害が予想外に少なかった。治安が悪いことから当初は代替開催案が出ていたことを考えると、素晴らしい成果だろう。

大使館が知る限り、最も深刻な犯罪被害は外国人サポーターが強盗に銃で撃たれたことだが、命に別状はなかった。日本人の強盗被害は2件、被害者3人のうちの1人が手にスリ傷を負い、あとの2人は無傷で済んだ。

日本人の被害の大半は置き引きやスリで、大使館に連絡があった被害件数は41件。前回のドイツ大会の約2倍だ。被害は財布、旅券、携帯電話、カメラなどが、応援の横断幕という意外な物もあった。犯人は日本語の横断幕に希少価値を見たのかも知れない。



初のアフリカ開催となった南ア大会は無事に終了。当コラムも今回で連載を終えることに。日本人サポーターをサポートした領事の最後の報告。

文◎新保剛

## 「祭りのあとの南アフリカ」

Tadashi ITOGA



▲ジョージのタウンシップで日本代表と交流した南アの子供たち。W杯終了後、南アの町は祭りのあとの静けさに包まれている

被害額を見ると、サポーターよりも報道陣の方が高額だった。カメラマンのプロ用機材や記者が原稿を書くのに使うパソコンが含まれていたからだ。また、観戦チケットの被害額も馬鹿にならない。8枚の観戦チケットをすられたケースでは、約20万円の損害。もっとも、被害者はチケットをどうやって再度入手するか心配していた。

このコラムの執筆を始めたのは昨年8月だった。治安に不安があっても日本人サポーターは必ず観戦にやってくる。それなら、どこが安全で何が危険なのか、詳しい情報をサポーターに提供しなければならぬと考えた。資金に余裕があれば、ツアーで来るからさほど心配はいらない。安全が気になるサポーターには、団体ツアーを勧めれば問題はない。突撃タイプのサポーターが心配だったが杞憂に終わった。筆者の知る限り、犯罪被害者の中に本誌の読者はいなかったから、狙いは当たったようだった。これまで誌面を提供していただいた編集部に感謝である。

今回のW杯は4年後にブラジルで開催。今度は仕事抜きで見たいと思っている。

著者プロフィール◎一等書記官兼領事。06年より在南ア共和国日本大使館に勤務。業務の1つに在留邦人と日本人旅行者の安全対策がある。2010年のワールドカップ中も、日本人旅行者に安全情報を発信した

外務省海外安全ホームページ <http://www.pubanzen.mofa.go.jp>

在南アフリカ日本大使館 [http://www.za.emb-japan.go.jp/index\\_jp.html](http://www.za.emb-japan.go.jp/index_jp.html)